京都芸術センター通信

KYOTO ART CENTER NEWSLETTER

October 2017
Vol.209

10

発行｜京都芸術センター
2017年9月20日

TOPIC 01

KYOTO EXPERIMENT 2017

京都国際舞台芸術祭 Kyoto International Performing Arts Festival

《内なる他者との出会い》

2010年より毎年秋に京都市内の劇場を中心に世界各地から先鋭的な舞台芸術を紹介してきた「KYOTO EXPERIMENT」。国内外のアーティストと共に作品を制作する「創造するフェスティバル」として、新作を積極的に紹介し、「創造」と「交流」の実験の場として、京都という都市が国際的な舞台芸術のプラットフォームとなることを目指しています。
8回目となる今回のテーマは「内なる他者との出会い」。アーティスト自身が地理的・ジャンル的・方法的な移動を行い、慣れ親しんだ自らの文脈を切断してみることで、自らの内でありながら《異なるもの》を見出すことを企図しています。

京都芸術センターでは、公式プログラムとして、日本初演となるパク・ミンヒの『歌曲(ガゴク)失格：部屋5↻』と、現在クリエーション中の神里雄大／岡崎藝術座の『バルパライソの長い坂をくだる話』を上演します。韓国・ソウルを拠点に活動し、今回初めて日本で公演を行うパク・ミンヒに、上演へ向けた心境を伺いました。

――パクさんは、ユネスコの無形文化遺産にも登録されている伝統的唱和法「歌曲(ガゴク)」を習得した歌い手ですが、現在の活動に至る経緯を教えてください。

パク・ミンヒ(以下、パク)：現在、韓国の伝統音楽は、いわゆる文化遺産としてのみ存在し、一般的に聞く機会は多くありません。ですので、歌い手としてどのように聴衆へ届けるべきかを考えざるを得ませんでした。多くの歌い手は西洋音楽風のアレンジを加えますが、私は音楽の鑑賞方法そのものに着目し、客席と会場を二分する構造の解体を試みました。多様なジャンルのアーティストやスタッフとのコラボレーションを重ねているため、現在のユニット名「박박parkpark」として活動しています。

――「歌曲(ガゴク)失格：部屋5↻」では、観客はいくつかの小さな部屋を巡り、それぞれの部屋でパフォーマーと観客が1対1となります。初演の韓国(2014)とこれまでの海外での公演で反応に違いはありましたか。

パク：韓国外ではまだヨーロッパでのみの発表なのですが、韓国では観客の多くが受け身で少し心地悪そうなのに対し、ヨーロッパの人々は積極的な反応を示しました。この作品は、たった一人のための劇場のような仕組みを持っています。なので、観客それぞれの鑑賞態度がパフォーマンスに大きな影響を与えます。ヨーロッパでは、犬が観客として来たこともありました。

――日本初演となる、今回の公演に向けてメッセージをお願いします。

パク：本作は、自分自身初めてヨーロッパでの上演した作品です。京都という伝統文化が広く息づく都市で、皆さんに披露できることをとても楽しみにしています。「東アジア文化都市2017」の関連シンポジウムにも、ぜひお越しください。

Profile

パク・ミンヒ(Park Minhee)
舞台芸術のメディウムを組み合わせた創作を行うアーティストであり、韓国の伝統的唱和法「歌曲(ガゴク)」を習得した歌い手。空間や身体を生かしたパフォーマンスを通し、西洋化した韓国社会からの文化的・芸術的独立や、「伝統的であること」が社会にどのように捉えられているかを探求し続けている。

神里雄大／岡崎藝術座『バルパライソの長い坂をくだる話』

「人の移動とその死」に迫る本作は、神里がオセアニア、小笠原、沖縄、ラテンアメリカ各国での取材から得たエピソードをもとに創作した新作です。これまで日本語での劇作活動を行ってきた神里が、2016年から1年間のアルゼンチン・ブエノスアイレス滞在を経て、現地で選出した俳優・ダンサーによるスペイン語での上演を行います。

ペルー共和国に生まれ、日本で育った神里。アルゼンチンでの生活を経て得た、劇作の新境地が期待されます。

Profile

神里雄大(かみさと ゆうだい) 1982年ペルー生まれ。東京および川崎を拠点に活動。演出家、劇作家。岡崎藝術座主宰。移民や労働者が抱える問題、個人と国民性の関係、同時代に生きる他者とのコミュニケーションなどについて思考しながら舞台作品を発表している。2016年10月から1年間、文化庁新進芸術家海外研修制度によりアルゼンチン・ブエノスアイレスにて研修。

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2017【京都芸術センター内会場プログラム】

パク・ミンヒ『歌曲(ガゴク)失格：部屋5↻』
日時：10月20日(金)–22日(日)、27日(金)–29日(日) 各日13:00／13:20／13:40／14:00／19:00／19:20／19:40／20:00
会場：講堂

神里雄大／岡崎藝術座『バルパライソの長い坂をくだる話』
日時：11月3日(金)19:30、4日(土)14:30☆、5日(日)13:00 ☆ポストパフォーマンストークあり 会場：講堂

※館内では、神里雄大／岡崎芸術座「バルパライソの長い坂をくだる話」のみチケットを販売。
パク・ミンヒ「歌曲(ガゴク)失格：部屋5↻」はKYOTO EXPERIMENT事務局でのみ取り扱い。

問合せ：KYOTO EXPERIMENT事務局 TEL：075-213-5839 WEB：https://kyoto-ex.jp

東アジア文化都市2017京都 関連シンポジウム「グローバル資本主義下の身体の行方」
あらゆるモノ／身体を記号化・消費していく現代においてリアリティのありかを探る。
日時：10月23日(月)14:00 会場：ロームシアター京都 会議室1 登壇者：金氏徹平、スン・シャオシン、パク・ミンヒ
料金：無料 申込：KYOTO EXPERIMENT事務局

※イベント情報(P2)もご覧ください

EVENTS

各種イベント申込方法（別途記載のあるもの、共催事業、制作支援事業は除く）
催し名・住所・氏名・電話番号を添えて、ウェブサイト申込フォーム、TEL、FAXで事前にお申込ください。チケット窓口でも受け付けます。
※友印の公演は、京都芸術センター友の会のご招待券・ご優待割引対象公演です（制作支援事業は京都芸術センターチケット窓口取扱公演のみご優待。共催事業はご優待対象外）その他、友の会特典詳細についてはウェブサイトをご覧ください
※各種年齢別・学生料金は要証明書呈示

美術

東アジア文化都市2017京都
「アジア回廊 現代美術展」窓
会期：8月19日（土）−10月15日（日）
京都芸術センター 10:00−20:00
※10月6日はニュイ・ブランシュのため22:00まで延長開廊
元離宮二条城 8:45−17:00（二の丸御殿台所・東南隅櫓は9:00−16:45、最終入城16:00）
※10月2日（月）は特別行事のため15:00−18:00（最終入城17:00）
会場：京都芸術センター、元離宮二条城
出展作家：西京人、草間彌生、堀尾貞治+現場芸術集団「空気」、今村源、中原浩大、三嶋りつ惠、やなぎみわ、伊藤存、宮永愛子、花岡伸宏、久門剛史、谷澤紗和子、ヒスロム、中村裕太+谷本研、キムスージャ、チェ・ジョンファ、オ・インファン、ハム・キョンア、ミックスライス、ヒョンギョン、ツァイ・グオチャン（蔡國強）、ヤン・フードン（楊福東）、ルー・ヤン（陸揚）、ヘ・シャンユ（何翔宇）、タオ・フイ（陶輝）
料金：［現代美術展］600円
［二条城入城+現代美術展］セット券1,200円
※［現代美術展］のみのチケットの場合、二条城への入城に別途料金が必要
※京都芸術センターは無料
チケット取扱：京都芸術センター ほか
※『二条城DE盆栽展』（9月21日−25日）、および伝統芸能公演（10月11日−15日）期間中は二の丸御殿台所での一部作品はご覧いただけません

［関連企画］
「茶の湯サロンいっぷく」による呈茶友
日時：会期中の毎週火曜日15:00−19:00
会場：フリースペース
料金：500円

主催：東アジア文化都市2017京都実行委員会、京都市
運営：東アジア文化都市2017京都現代美術部門運営委員会
共同企画：京都芸術センター
問合せ：京都いつでもコール
TEL：075-661-3755
※イベント等の詳細はウェブサイトをご覧ください
www.asiacorridor.org

「アジア回廊 現代美術展」特別連携事業
京都学生アートオークション
京都の美術系大学で学ぶ学生のキャリア支援を目的としたオークションを開催します。

プレビュー展示
会期：9月25日（月）−29日（金）10:00−20:00
※29日（金）のみ17:00まで
会場：フリースペース
料金：無料

オークション
日時：9月30日（土）14:00−16:00（開場13:30）
会場：フリースペース
料金：無料
※オークションの落札金は全額出品者が受領します

主催：京都学生アートオークション実行委員会
企画運営：株式会社AGホールディングス
問合せ：京都学生アートオークション実行委員会
TEL：03-3465-3010

伝統

ニュイ・ブランシュKYOTO 2017
香老舗 松栄堂による香りの演出
アンスティチュ・フランセ関西、元淳風小学校でも、松栄堂による香りの演出をお楽しみいただけます。
日時：10月6日（金）10:00−22:00
会場：京都芸術センター各所

伝統芸能文化創生プロジェクト
講座シリーズ#2
無形文化遺産ってなに?
ユネスコの無形文化遺産保護の理念と、その意義や問題点について、特に「文化遺産はだれのものか」ということに焦点を当てて考えます。
日時：11月4日（土）17:00−18:30
会場：フリースペース
講師：俵木悟（成城大学文芸学部准教授）
料金：無料
定員：70名（事前申込可）

演劇

演劇計画II−戯曲創作−
「S/F ―到来しない未来」
KAC S/F Lab. オープンラボ vol.3
「認識、存在、意味―フィクションの現実性（仮）」
戯曲創作と並行して展開する、科学とフィクションについてのレクチャー&ディスカッションの第3段。
日時：11月3日（金・祝）14:00
会場：ミーティングルーム2
登壇：入不二基義（青山学院大学教授）、松原俊太郎、山本健介（委嘱劇作家）
料金：無料
定員：30名（先着順／要事前申込）
※Topic03（P4）もご覧ください

ダンス

アーティスト・イン・レジデンスプログラム2017
アラン・ミシャール&マティアス・ポワソン
ワークショップ「あたらしい地図をつくる」
街を歩き、文章や地図、写真などで体験を再現します。都市や建築と身体の関係性を探ります。

ワークショップ #1 小学生向け
日時：9月24日（日）10:30−12:30
定員：10名（先着順／要事前申込）
対象：3年生以上
※保護者の方も一緒にご参加いただけます

ワークショップ #2 大学生向け
日時：9月21日（木）、22日（金）、25日（月）、26日（火）、27日（水）
18:00−21:00
※5日間全ての参加が望ましい
定員：15名（先着順／要事前申込）
対象：アートや建築、身体表現を学んでいる、もしくは興味がある大学生、大学院生、専門学校生

ワークショップ #3 一般向け
日時：9月25日（月）−27日（水）10:30−12:30
28日（木）−29日（金）
10:30−12:30／19:00−21:00
※希望の日程に参加。複数回も可
定員：各回15名（先着順／要事前申込）
対象：中学生以上

料金：無料
持物：筆記用具、家の周りの地図や写真
集合：制作室11
※歩きやすい靴、服装でお越しください

ニュイ・ブランシュKYOTO 2017
アラン・ミシャール&マティアス・ポワソン
『プロムナード・ブランシュ・キョウト』
アラン・ミシャールとマティアス・ポワソンが考案した、ユニークな散策に出かけましょう。参加者は二人一組となり、一人が白くぼやける眼鏡をかけ、もう一人が先導役となり街を歩きます。
日時：10月6日（金）15:00／18:00／20:00
※各回約90分を予定
集合：フリースペース
料金：無料
定員：各回27名（先着順／要事前申込）
対象：小学3年生以上。90分の街歩きが可能な方。一人での応募も可
※歩きやすい靴、服装でお越しください

［関連企画］
展覧会『ヒッポカムポス・オブ・キョウト』
京都滞在中に制作した作品と、ワークショップ参加者の作品を展示します。
日時：10月6日（金）−11日（水）10:00−20:00
※10月6日のみ22:00まで
会場：制作室11、インフォメーション
料金：無料

主催：京都芸術センター
製作：LOUMA、-able
共同製作：京都芸術センター、アンスティチュ・フランセ関西

KYOTO EXPERIMENT

※Topic01（P1）もご覧ください

パク・ミンヒ
『歌曲（ガゴク）失格：部屋5↻』
韓国の伝統的唱和法「歌曲（ガゴク）」を通し、伝統芸術の在り方を問うパフォーマンス作品。
日時：10月20日（金）−22日（日）、
27日（金）−29日（日）
各日13:00／13:20／13:40／14:00／19:00／19:20／19:40／20:00
会場：講堂
出演：パク・ミンヒ
料金：一般前売2,000円／当日2,500円
U25前売1,500円／当日2,000円
高校生1,000円（前売・当日共）
ペア3,500円（前売のみ）
チケット取扱：前売券はKYOTO EXPERIMENTチケットセンターのみ
TEL：075-213-5839（11:00−19:00）
※韓国語（日本語字幕あり）

神里雄大／岡崎藝術座『バルパライソの長い坂をくだる話』窓
神里がアルゼンチン滞在中に取材した内容をもとに創作した、スペイン語による新作。
日時：11月3日（金・祝）19:30
4日（土）14:30☆
5日（日）13:00
☆ポストパフォーマンストークあり
会場：講堂
出演：マルティン・チラ、マルティン・ピロヤンスキー、マリーナ・サルミエント、エドゥアルド・フクシマ
料金：一般前売2,500円／当日3,000円
U25前売2,000円／当日2,500円
高校生1,000円（前売・当日共）
ペア4,500円（前売のみ）
※スペイン語（日本語字幕あり）

エドゥアルド・フクシマ ダンスワークショップ
神里雄大／岡崎藝術座『バルパライソの長い坂をくだる話』に出演する、エドゥアルド・フクシマ（ダンサー・振付家）によるワークショップ。
日時：11月6日（月）、7日（火）18:00-21:00
会場：講堂
定員：20名
対象：ダンサー、振付家、俳優、演出家、アーティスト、身体に興味のある方
料金：4,500円（2日間通し）
申込：KYOTO EXPERIMENT事務局
TEL：075-213-5839
WEB：https://kyoto-ex.jp
※英語（日本語逐次通訳あり）

明倫ワークショップ

京都芸術センター制作室で創作活動を行うアーティストによるワークショップ。（参加無料）

ルドルフ「『宇治拾遺物語』をお芝居にする」
説話集『宇治拾遺物語』から短い話をとりあげ、文章を読みながらどんな風に人が動いたり、会話しているか想像をひろげ、短いお芝居を作ります。
日時：10月7日（土）14:00−16:00
会場：制作室6
定員：10名
持物：筆記用具

笑の内閣
「新聞記事から時事ネタコントを作ろう」
笑の内閣では、時事ネタを取り入れたコントをたくさん作っています。新聞記事を持って来て、中から面白そうなニュースを選択し、コントを作ることで時事問題に対する考察を深めます。
日時：10月7日（土）19:00−21:00
会場：制作室6
定員：10名
持物：新聞記事

制作支援事業

KYOTO EXPERIMENT 京都国際舞台芸術祭2017 フリンジ「オープンエントリー作品」
少し怪しい祭り実行委員会『少し怪しい祭り』
尾上一樹・JIJO・よいとなの3組によるマイム・人形劇・演劇の3作品をブッキング上演。
日時：10月7日（土）19:00
8日（日）14:00／18:00
9日（月・祝）11:00／15:00
会場：あとりえミノムシ（上京区）
料金：一般2,000円（前売・当日共）
U18 1,000円（前売・当日共）
問合せ：少し怪しい祭り実行委員会
E-mail：sukoaya@gmail.com

ルドルフvol.5
『まつろはぬものの記 -探訪 宇治拾遺物語-』
説話集『宇治拾遺物語』を舞台化。昼・夜で別プログラムを上演します。
日時：10月12日（木）19:00
13日（金）14:00／19:00
14日（土）14:00／18:30
会場：永運院（左京区）
料金：【昼公演】一般前売2,000円／当日2,200円
学生前売1,500円／当日1,700円
【夜公演】一般前売2,800円／当日3,000円
学生前売2,300円／当日2,500円
問合せ：ルドルフ
TEL：050-5215-5987
E-mail：mercury@rudolf.kyoto.jp

第25次 笑の内閣『名誉男性鈴子』窓
日時：11月9日（木）−14日（火）
※詳細スケジュールは公式ウェブサイトをご覧ください
会場：KAIKA（下京区）
料金：一般予約3,300円／当日3,500円
U25予約 2,800円／当日3,000円
※10月26日（木）まで先得チケット販売
問合せ：笑の内閣
TEL：090-2075-0759（9:00−20:00）
E-mail：waraino_naikaku_u@yahoo.co.jp
WEB：http://warainonaikaku.sitemix.jp

TICKETS チケット販売

KAC Performing Arts Program 2017 / Contemporary Dance 国際共同制作
『RE/PLAY Dance Edit』友
日時：11月25日（土）19:00
26日（日）15:00
会場：講堂
演出：多田淳之介
振付・出演：きたまり、今村達紀、Sheriden Newman、Narim Nam、Chanborey Soy、Aokid、斉藤綾子、吉田燦
料金：一般前売2,000円／当日2,500円
U25割引1,000円（前売のみ）
チケット取扱：京都芸術センター
主催：京都芸術センター、NPO 法人Offsite Dance Project、RE/PLAY Dance Edit 実行委員会

第248回市民狂言会
茂山忠三郎、襲名おめでとう! 公演
日時：12月8日（金）開場18:30 開演19:00
会場：京都観世会館（左京区）
演目：延命袋、文荷、呂蓮、室町歌謡組曲
出演：茂山千作、あきら、千三郎、千五郎、忠三郎 ほか
料金：前売2,500円／当日3,000円
チケット取扱：京都芸術センター、大丸京都店、高島屋京都店、チケットぴあ（Pコード：481-000）
※団体券2,200円（20名以上）は京都芸術センターにて取扱

小さなオペラ『木の匙』友
Co-programカテゴリーA（共同制作）採択企画。
日時：12月8日（金）開場18:30 開演19:00
10日（日）開場15:30 開演16:00
会場：講堂
演出：乃村健一
出演：乃村八千代、砂場拓也、武知朋子
料金：一般前売3,000円／当日3,500円
学生前売2,000円／当日2,500円
チケット取扱：京都芸術センター
主催：乃村健一、京都芸術センター

チケットぴあで取扱いのチケットは、電話、ぴあ窓口、コンビニエンスストア（セブン・イレブン、サークルKサンクス）の専用端末などからご利用いただけます。
WEB：http://t.pia.co.jp TEL：0570-02-9999

※その他のチケット窓口取扱公演：主催事業および窓印の共催事業・制作支援事業

OPEN CALL 募集

Artist-in-Residence Program：Exchange / ソウル・ダンス・センター
コレオグラファー募集
ソウルダンスセンター（SDC）とのエクスチェンジプログラムにて、2018年6−7月にソウルダンスセンターでリサーチ、クリエイションに取り組むコレオグラファーを募集します。
支援内容：
・制作費1,800,000韓国ウォン（約175,000円相当 ※2017年9月現在）
・往復航空券（日本−ソウル間）
・宿泊場所、スタジオの提供
・コーディネーターのサポート
締切：9月30日（土）〔必着〕

Artist-in-Residence Program：Exchange / ARTSPACE
ビジュアルアーティスト募集
2018年7月−10月にARTSPACE（シドニー・オーストラリア）でリサーチ、制作に取り組むビジュアルアーティストを募集します。オーストラリア・アーツ・カウンシルとの連携プログラム。
支援内容：
・制作費200,000円（内税）
・生活支援費として150,000円（内税）
・往復の航空券（日本−シドニー間）
・宿泊場所、スタジオの提供
・コーディネーターのサポート ほか
締切：9月30日（土）〔必着〕

第37期制作室使用者募集
若手芸術家の活発な創作活動を支援するため、造形および舞台芸術作品の制作を行う「制作室」（全12室）を提供します（審査有）。
使用期間：2018年4月1日（日）−9月30日（日）
使用料：無料
条件：
・1申請につき使用期間は最大3ヵ月
・新しい芸術表現を試み、継続的な活動を展開していること
・制作した作品を京都芸術センター以外の場で発表する具体的な計画があること
・市民との交流に対して意欲的であること
・明倫ワークショップの実施
・毎月実施の制作室連絡会への参加
募集期間：9月1日（金）−9月30日（土）〔必着〕

第4回「藝文京展」
今回は立体造形作品を募集します。限られたスペースの中で、いかに多様な姿・かたちを表すことができるのか。手元にとどめ、暮らしの空間に愉しさや豊かさをもたらす、造形美とオリジナリティに富んだ立体造形作品を期待しています。
募集分野：立体造形
テーマ：フォームとフィギュア
締切：11月30日（木）〔必着〕
審査員：伊勢信子（立体造形作家、京都市芸術文化協会評議員）、小清水漸（彫刻家）、近藤髙弘（陶芸・美術家）、建畠晢（京都芸術センター館長）、中ハシ克シゲ（現代美術家）
応募資格：性別、年齢、国籍、所属、経歴不問。個人のみ（グループでの応募は不可）
登録料：5,000円

※詳細は要項及びウェブサイトをご覧ください

募集要項および応募用紙は、同センターにて配布中。ウェブサイトからもダウンロード可。
応募方法：応募用紙に必要事項を記入の上、必要書類とともに京都芸術センターまで送付または持参（持参の場合は締切日の20時まで）。

REVIEW

関西圏の公演・展覧会について、
若手レビュアーが月替りで執筆します。

音楽

今こそ、手作りの大切さを知る

筒井はる香

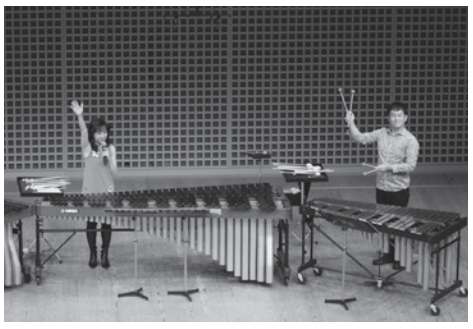
アンサンブルホールムラタ・コンサートシリーズ
子どものための”音楽のトビラ”「マリンバの魔法」
7月29日（土）
京都コンサートホール（京都市左京区）

「子どものための音楽のトビラ」は、京都コンサートホールのオリジナル・プログラムのコンサートである。「マリンバの魔法」と題した今年の公演も、神谷百子氏と西久保友弘氏の素晴らしいパフォーマンスと、教育的配慮がいきとどいた構成によって、舞台と客席が一体となる公演であった。

冒頭は、まず神谷氏が一人舞台に出て、「騎士の踊り」（プロコフィエフ）と「ブエノスアイレスの夏」（ピアソラ）の2曲を演奏した。奏者の集中力や緊張感をじかに感じることは、音楽会に足を運ぶ楽しみの一つであり、醍醐味といってよいだろう。このようなプロの気構えと、初めての楽器を見たときに抱く素朴な疑問を大切にした始まり方であった。

続いて、「マリンバはもともとどこの国で作られたか」、「何で音を出しているか」、「パイプはどうしてついているか」など好奇心をそそる問いが次々と投げかけられると、元気な声が会場を飛び交う。子どもたちから思いがけない答えが返ってきた時でも、神谷氏が「正解は一つではなく、見方によってはどれも正しい」と導いたことは、今回の演奏会において大いに評価されるべきだろう。

奏者たちの徹底した実践主義も見事である。マリンバのパイプは共鳴管の役割をしていると説明した後、



撮影：大澤正

共演者の西久保氏が、パイプの穴が開放された状態と穴を閉じた状態とで弾き比べ、開放された方が大きく響くことを体感させ、同じくヴィブラフォンのペダルを使った方が、響きが長く残ることを耳で理解させる。いったん楽器の特徴を知ると、奏者の手足の動きに目を凝らしたり、奏法による音色の違いを意識するようになるなど、より注意深く演奏を聴くようになり、聴衆はマリンバの魔法の世界にますます引き込まれていく。

レパートリーにも工夫が凝らされていた。古典的な名曲だけではなく、「ブラジリアン・ファンタジー」（ロサウロ）や「エッヒュゴネトロム」（レス）などの打楽器奏者がマリンバのために作曲したラテン系のポップな曲が披露され、現代のマリンバ音楽も知ることができた。

教育的配慮がやや過剰と感じたのは、「ボレロ」（ラヴェル）の演奏に合わせてスネアドラムのリズムを打つ試みだ。遊び盛りの子どもたちに複数のリズムを厳密に区別して演奏させる効果はどれほどあるだろうか。開演前、螺旋廊下の突起したオブジェに飛んでタッチしたり、叩いて音を出したりして無邪気に遊ぶ子どもたちを見て、ふと思った。とはいえ、AI（人工知能）が浸透した今こそ、今回のような手づくりの演奏会は継承されなければならない。

つつい はるか／同志社女子大学非常勤講師ほか●音楽について文章を書くのは、とても難しいと感じる今日この頃です。しかし、芸術体験を言葉で伝えることも一つの表現であり、これからも思い悩みながら書いていきたいです。

演劇

演劇の王道

ピンク地底人3号

サファリ・P『財産没収』
8月17日（木）–20日（日）
アトリエ劇研（京都市左京区）

『財産没収』は『ガラスの動物園』や『欲望という名の電車』で知られるアメリカの作家テネシー・ウィリアムズによって1942年に書かれた短編戯曲である。

海外戯曲を取り扱う際、最初に考えなければならないのはいかにして時代も国も違う作家によって書かれた戯曲を今の日本で上演し演出するかということだ。仮に演劇を社会を写す鏡と仮定するなら、例えそれが戦前に書かれたものであっても国外で書かれたものであっても舞台上で起きていることは今現在の受け手を反映していなければならない。その反映があって初めて作り手と受け手のコミュニケーション、つまり演劇が成り立つ。しかしこれがことの他難しく、また演出家の腕の見せ所である理由は「戯曲が持つ身体と言葉」と「俳優が持つ身体と言葉」が決定的にズレているためである。無自覚な演出家の場合、なんとかしてこのズレを埋めようと躍起になるわけだが、そういった上演が大抵失敗に終わるのはその発想がそもそも間違っているからだ。その逆、ズレにこそドラマ、つまり現在を見い出すことが海外戯曲を演出する第一歩となる。

ではサファリ・Pの演出家山口茜の場合はどうか。彼女が着目したのは作家として生きたテネシーの孤独、つまり人間（受け手）の孤独である。その孤独をあぶり出すための戦略はこう書かれてある。

“私たちは、この戯曲の奥にある、テネシー・ウィリアムズの人生を舞台化しようと思う。少年少女二人だけのセリフを、テネシー・ウィリアムズ、テネシーの恋人、テネシーの姉に、不動産を差し押さえに来る調査官などに置き換え、まったく違う物語を立ち上げる。”

戯曲の舞台はミシシッピーにある鉄道の土手。靄の中から13歳のウィリーがやってきて土手下にいるトムに語り出す。いなくなった両親のこと、肺病で亡くなった姉のこと、財産没収のこと……。

実際の上演は男性二人と女性一人によって演じられた。特筆すべきは彼らの役が固定化されない点である。それは上記した「戯曲の身体と言葉」と「俳優の身体と言葉」のズレを埋め「ない」ためであり、もう一つ、演じる彼らはウィリーでありトムであり、ウィリーの姉アルバであるのと同時に書き手であるテネシー本人でもあるためだ。登場人物たちと、テネシーの波乱万丈の人生、そしてそれを発話する俳優、この三重構造が目の前の空間を豊穣なものにしている。やがてこの役の無固定化により、全ての台詞がテネシーの言葉に聞こえてくる。そして俳優はテネシーの言葉を発話する身体、つまり巫女へと変化していく。かつてこの世に確かに存在した死者の声に耳を傾けること、一見難解なように見えてこれはまさに演劇の王道ではなかったか。しかしどうしてこんな奇跡みたいな演劇を山口は作り出すことができたのだろう。それはこの演出プランがそもそも持つ「無理」に答えがあるのではないか。『財産没収』の台詞はあくまで少年と少女のものである。それを作家とその周辺の人々の言葉に置き換えると当然「無理」が出てくるわけだが、山口はその「無理」を作家が戯曲に無意識に込めてしまった「孤独」として変換、昇華したのだ。

（8月19日18時の回を観劇）

ぴんくちていじんさんごう／演出家●10月終わりから11月初旬にかけて俳優酒井信古と新しい団体を始めます。詳細はTwitter @pinkchiteijin3にて。宜しくお願い申し上げます。

撮影：堀川高志

美術

私の「死角」を考える

清澤暁子

東アジア文化都市2017京都「アジア回廊 現代美術展」
京都芸術センター会場
8月19日（土）–10月15日（日）
京都芸術センター（京都市中京区）

元離宮二条城と京都芸術センター両会場で開催中の本展。京都芸術センターでは、日本・中国・韓国より10組のアーティストが、全館を活用し充実の質と量で展示を展開する。

ギャラリー南で、目に飛び込んできたのはピンク色だ。同色のテープで貼り込められた面が、四方の壁や天井に不思議なかたちで広がっている。オ・インファンによる《死角地帯探し》。会場には、白杖を手にした視覚障害者の方がいて、付近のパネルからドーセント（展覧会ガイド）であると分かる。声をかけることでコミュニケーションが始まり、ドーセントと展示要素について会話しながら、2つある作品会場をめぐる。

ピンクの面が示すのは、展示室の監視カメラの死角だった。自分も監視されるということ、そこから逃れることが物理的な空間をもって体感される。モニター上映のインタビューでは、韓国人の男性が兵役の軍隊生活において、どうやって、どこに自らの私的空間=死角地帯を見つけたかが語られる。それは統制や制度の隙間に入り込むことでもある。

ドーセントの存在が大きい。彼は、自身の目で展示を見ることはないが、彼を通じて私は展示を発見していく。ここで取り結ばれる関係性は、ひとときであっても、日常では埋もれてしまいがちな積極的な関係である。ギャラリー空間、インタビュー、そして私の日常へと、オの作品は入れ子のように多層性を帯びながら、作品の当事者は鑑賞者であることに気付かせてくれる。

北館に大きく展開するのは堀尾貞治+現場芸術集団「空気」《あたりまえのこと – 色塗りとか》。四角く切った展覧会チラシに黒で縁や模様を施し、1階からスロープや柱、廊下をリズミカルに埋め尽くしていく。導かれるように3階の展示室に至ると、あらゆるオブジェクトが床や壁に、そして天井から吊られている。堀尾は何かにひとつの色を塗る「色塗り」を日課としており、作品はそんな「あたりまえのこと」の集積だ。徹底的に日常にこだわることで、突き抜けた創造性を獲得する。それは仲間の存在によってさらに増幅し、館内の廊下から展示室に響き渡る。

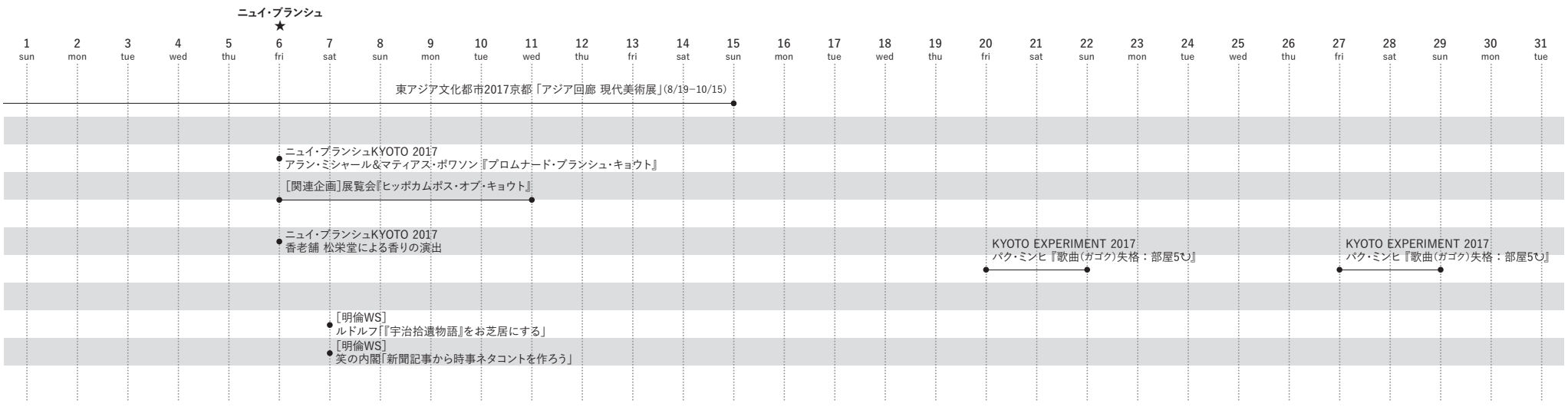
教室での展示を逆手にとったのは、中原浩大の《Educational》だろう。自身の幼少期から高校時代までの絵を中心に自由研究発表、作文などを、3教室にわたり年代ごとに展示した。壮観。だが、展示台の巨大さや脚の太さが目につきはじめると、みっちり並んだ画用紙、教室はどこか威圧的な感じを帯びる。学校や家庭に潜む別の一面が炙り出される。4階和室「明倫」の今村源もまた、和室の典型を提示しつつ巧妙なズレを仕込み、日常の裂け目から深淵を覗きこませる。空間を知り尽くしたユーモアとともに。

鑑賞の最初に強く意識させられた、見える／見えないものごと。普段は私たちの日常に沈みこみ、やり過ごし気づいていないことに、アーティストたちは多様な角度から光をあてる。それはまさに「死角」を探し出し、そこに何があるかを考えてみることである。例えば規律や制度、マイノリティとマジョリティ、学校、教育、そして空気。いずれの問いも私の人生、私が生きる社会と同じところから発せられている。鑑賞者自身についての発見と応答が、多く生まれることを期待する。

きよさわ さとこ／ART CAMP TANGO 2017キュレーター●本展を見て、京都芸術センターの役割もまた変化してきているように感じました。二条城の展示との関係も改めて考えてみたい。9月は京丹後市にてART CAMP TANGO 2017「音のある芸術祭」の開催に携わっています。

オ・インファン《死角地帯探し》 撮影：来田猛

EVENT CALENDAR 10/1 ▶ 10/31



図書室休室日：10月31日（火）

明倫レコード倶楽部［其ノ61］

素謡の会関連企画「謡曲ひとめぐり」第三回『草子洗小町』(於：随心院)

Kyo×Kyo Today vol.7「ロマンティックバリエーション」 photo by Inoue Yoshikazu

TOPIC 02

みみききプログラム

京都芸術センターが継続してきた人気企画、「明倫レコード倶楽部」、「素謡の会」、そして「Kyo×Kyo Today」。それぞれ年1回ずつの開催となる今年は、どれも音色に耳を傾ける企画ということで、共通のテーマを「冬」とし「みみききプログラム」としてシリーズ化しました。

「**#1 明倫レコード倶楽部**」は、2003年にレコード研究家の故・亀村正章氏と始めた、元明倫小学校の懐かしい校舎でレコードの音色と解説に耳を傾けるプログラムです。2013年から作家のいしいしんじ氏を講師にお招きし、貴重なコレクションの中から、エルヴィス・プレスリーの「ラブ・ミー・テンダー」やクロード・ソーンヒル楽団「雪のかけら」など、冬にとっておきの曲目をお送りします。

「**#2 素謡の会**」は、2005年に開始した、京都を中心に活躍する能楽師による「素謡」を上演するプログラムです。謡(うたい)とは、能の詞章(台詞や歌謡)のこと。素謡(すうたい)は、能一曲を所作や囃子を伴わず、座した状態で謡のみで表現する上演形式を指します。今回取り上げる演目は『鉢木(はちのき)』。謡曲のなかでも冬の名曲を、解説や仕舞、トークなども交えながらご紹介します。

「**#3 Kyo×Kyo Today**」は、2011年から続く、京都芸術センターと京都市交響楽団のコラボレーション企画で、奏者の息遣いが聞こえるほどの近い距離で音楽を楽しめるのが特徴です。第8弾となる今回は、冬にまつわるどんな曲目が披露されるのか、毎回好評の曲間トークもお楽しみに。

また、気軽に複数の公演にお越しいただけるよう、セット券や半券割引をご用意しました。寒い冬を楽しみに、皆さまのお越しをお待ちしております。

冬は、寒さと慌ただしさで外出が億劫になってしまいがちですが、楽しいイベントは別です。ちょっと行ってみようかな、と冬の予定に加えていただけると嬉しいです。
堀越芽生子(アートコーディネーター)

みみききプログラム友
チケット発売日：すべて10月21日(土)10:00

#1 明倫レコード倶楽部 冬の会
レコードの響きに耳を澄ます。
日時：12月16日(土) 受付14:00 開場14:30 開演15:00
会場：講堂
講師：いしいしんじ(作家)
料金：500円(1ドリンク付)

#2 素謡の会
「謡」を通して、詞章の持つ魅力、響きの美しさに迫る。
日時：2018年1月25日(木) 受付18:00 開場18:30 開演19:00
会場：大広間(待合：講堂)
ナビゲーター：田茂井廣道(能楽師・観世流シテ方)
料金：前売1,500円／当日1,800円

#3 Kyo×Kyo Today
京都市交響楽団との共同で行う、毎回趣向を凝らしたプログラムが好評の室内楽シリーズ。
日時：2018年1月31日(水) 受付18:00 開場18:30 開演19:00
会場：講堂
料金：一般前売1,800円／当日2,000円
学生1,000円(前売・当日共)
共同主催：京都市、京都芸術センター、京都市交響楽団

3セット券：一般3,300円／学生2,500円(前売のみ)
半券割引：京都芸術センター窓口でのチケット購入時に、「みみききプログラム」の他の公演の半券をお持ちいただいた場合、200円割引します。1回のみ有効。
チケット取扱：京都芸術センター

TOPIC 03

演劇計画II ―戯曲創作―
戯曲第1稿公開

3ヶ年をかけ、劇作家が新作戯曲を創作する「演劇計画II-戯曲創作-」。「S/F ―到来しない未来」のテーマに基づき、2018年の戯曲完成に向けて、劇作家二名がリサーチと改稿を進めています。

松原俊太郎と山本健介、二人の劇作家による新作戯曲の創作が進行中です。2017年9月には、演劇計画IIのアーカイブウェブサイトもオープン。戯曲創作と、並行して展開する科学と虚構についての研究の場「KAC S/F Lab.」の記録を随時公開していきます。動画やラボ参加者のレポート等、これまでの議論と創作のプロセスを垣間見ていただけます。

そして2017年11月、ついに新作戯曲の第1稿が公開となります。公開された戯曲は今後、合評会などのフィードバックの機会を経て、2018年初夏の完成稿公開、そして2018年末の最終稿公開に向けて、改稿を進めます。新進気鋭の劇作家二人は、どのような未来への青写真を描くのでしょうか。

戯曲公開に際して、11月3日(金・祝)にオープンラボvol.3を開催します。過去、現在、未来の構造を再検討する、哲学者の入不二基義氏(青山学院大学教授)を迎え、劇作家とともに、「認識、存在、意味」をキーワードに考察します。また、12月に開催予定のオープンラボvol.4「計画と構想 ―松原俊太郎」では、作者である松原俊太郎とともに、公開された戯曲第1稿について、戯曲のポテンシャルを探り、改稿を展望します。

今後の創作とラボの予定は、随時アーカイブウェブサイトでお知らせしていきます。ぜひチェックして下さい!!

公開される戯曲第1稿は、オープンソースライセンスに基づき、自由な上演や使用が許諾されています。この第1稿の先にどんな演劇の未来が開かれているのか、皆さんも上演にチャレンジしてみては?
谷竜一(アートコーディネーター)

オープンラボvol.1の様子。左から松原俊太郎、蔵本由紀(京都大学名誉教授)、山本健介、松葉祥一(同志社大学嘱託講師)

演劇計画II―戯曲創作―「S/F ―到来しない未来」

アーカイブウェブサイト
http://engekikeikaku2.kac.or.jp
11月初旬、戯曲第1稿公開(予定)

KAC S/F Lab. オープンラボ

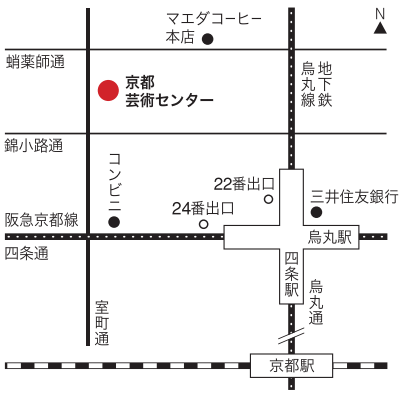
vol.3「認識、存在、意味―フィクションの現実性(仮)」
日時：11月3日(金・祝)14:00
会場：ミーティングルーム2
登壇：入不二基義(青山学院大学教授)、松原俊太郎、山本健介(委嘱劇作家)
料金：無料
定員：30名(先着順／要事前申込)
※イベント情報(P2)もご覧ください

vol.4「計画と構想-松原俊太郎」
日時：12月中旬開催予定
登壇：松原俊太郎 ほか
※詳細はウェブサイトをご覧ください

京都芸術センター

交通案内
○市営地下鉄烏丸線「四条」駅／
阪急京都線「烏丸」駅22番出口・24番出口より徒歩5分。
○市バス「四条烏丸」下車、徒歩5分。

開館時間
○ギャラリー・図書室・情報コーナー・談話室・チケット窓口 …… 10:00−20:00
○カフェ …… 10:00−21:30
○制作室、事務室 …… 10:00−22:00

休 館 日
12月28日から1月4日
*設備点検のため臨時休館することがあります。

〒604-8156
京都市中京区室町通蛸薬師下る山伏山町546-2
TEL：075-213-1000 FAX：075-213-1004
E-mail：info@kac.or.jp URL：http://www.kac.or.jp/
twitter：@Kyoto_artcenter
http://www.facebook.com/kyotoartcenter